

注3

大学番号：私016

[平成25年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

岩手医科大学大学院 薬学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 岩手医科大学
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 矢巾キャンパス教務課

職名・氏名 課長・佐藤^{サトウ} 公俊^{マサトシ}

電話番号 019-651-5111

（夜間） 019-651-5111

F A X 019-698-1826

e-mail yakukyomu@j.iwate-med.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

岩手医科大学大学院薬学研究科

<医療薬学専攻>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	20
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 岩手医科大学

(2) 大学名

岩手医科大学大学院

(3) 大学の位置

〒028-3694

岩手県紫波郡矢巾町西徳田2丁目1番1号

(岩手県盛岡市内丸19番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ アキラ) 小川 彰 (平成24年2月)		
学長	(オガワ アキラ) 小川 彰 (平成20年1月)		
研究科長	未定	(マエダ マサトモ) 前田 正知 (平成25年4月)	平成25年4月1日就任 (25)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)
平成27年度に報告する内容 → (27)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の博士後期課程の場合(平成27年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 医療薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	4 年	3 人	12 人	基礎となる学部等 薬学部薬学科

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	3 (3) [-]	人	3 (3) [3]	人	3 (3) [3]	人	() []	人	1.32倍	-	入学定員は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を含んでいる。(26) 入学定員は、一般選抜、社会人特別選抜を含んでいる。
志願者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (1) [1]	- (-) [-]	5 (4) [-]	- (-) [-]	() []	() []			
受験者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (1) [1]	- (-) [-]	5 (4) [-]	- (-) [-]	() []	() []			
合格者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (1) [1]	- (-) [-]	5 (4) [-]	- (-) [-]	() []	() []			
B 入学者数	2 (2) [-]	- (-) [-]	5 (1) [1]	- (-) [-]	5 (4) [-]	- (-) [-]	() []	() []			
入学定員超過率 B/A	0.66		1.66		1.66						

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, **計算の際は「入学定員超過率」と同様**にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	[-] (-) 2	[-] (-) -	[1] (-) 5	[-] (-) -	[-] (-) 5	[-] (-) -	[] (-)	[] (-)		
2年次	/		[-] (-) 2	[-] (-) -	[1] (-) 5	[-] (-) -	[] ()	[] ()		
3年次			/		/		[-] (-) 2	[-] (-) -	[] ()	[] ()
4年次							/		/	
計			[-] (-) 2	[1] (-) 7	[1] (-) 12	[] ()				

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で**記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	2人	0人	平成25年度	0人	0人		0%
			平成26年度	0人	0人		
			平成27年度	0人	0人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	5人	0人	平成26年度	0人	0人		0%
			平成27年度	0人	0人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	5人	0人	平成27年度	0人	0人		0%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
合計	12人	0人					0%

(注)・数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成27年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医療薬学専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療薬学 コース科目 講義科目 分子病態解析学 科目	病態医化学特論	1・2・3・4前 未開講										通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 兼2 兼任教員退職のため 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼3 複数教員共同
	神経科学特論	1・2・3・4前 1・2・3・4後 未開講										通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼1 複数教員共同
	病態生理学特論	1・2・3・4前 1・2・3・4後 未開講										通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 兼1 兼任教員退職のため 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼2 複数教員共同
	炎症再生医学特論	1・2・3・4前 未開講										通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼1 複数教員共同
	分子病態解析学セミナー	1~4通 未開講 1~4通										通常開講 (26) 履修希望者がいないため (25)
	小計 (5科目)			0	12	0	3	1	0	0	0	兼5 兼7

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
医療薬学 コース科目 講義科目 分子薬効解析学 科目		1・2・3・4後										通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 准教授から教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)
	分子薬剤治療学特論	未開講 1・2・3・4後	1			1	0					当該年度未開講のため (27) 担当教員退職 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)
	応用薬理学特論	未開講 1・2・3・4前	1					1				通常開講 (27) 退職教員 → 兼任教員 担当教員退職 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)
	薬物トランスポーター学特論	1・2・3・4後 未開講	1					0				兼1 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)
	組織・器官機能研究法特論	1・2・3・4後 未開講	1			1						通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)
	蛍光イメージング研究法特論	1・2・3・4後 未開講	1			1						履修希望者がいないため (27) 当該年度未開講のため (26) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼3 複数教員共同
	分子薬効解析学セミナー	1～4通 未開講 1～4通	8			1	0					通常開講 (26) 准教授から教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25)
小計 (6科目)			0	13	0	2	2	0	0	0	兼4 兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
医療薬学コース科目	講義科目 薬物療法解析学科目	薬物送達学特論	未開講 1・2・3・4後	1		1						当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)	
		医薬品薬効動態学特論	未開講 1・2・3・4前	1		1						当該年度未開講のため (27) 通常開講 (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)	
		ゲノム情報薬学特論	1・2・3・4後 未開講	1			1					通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)	
		分子腫瘍学特論	1・2・3・4前 未開講	1			1					通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 兼2 複数教員共同	
		がん薬物療法学特論	未開講 1・2・3・4後	1			1	0				当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 准教授から教授への昇格 平成25年1月教員審査済 平成25年4月 隔年開講 (H26, 28年度開講予定) 兼2 複数教員共同	
		臨床分子薬品学特論	未開講 1・2・3・4前	1					1			当該年度未開講のため (27) 通常開講 (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)	
		薬物療法解析学セミナー	1~4通	8			1						
		小計 (7科目)		0	14	0	3	2	1	0	0	兼4	
		実習科目	医療薬学特別研究 (分子病態解析学)	1~4通 未開講 1~4通	16			3	1				通常開講 (26) 履修希望者がいないため (25) 複数教員共同 担当教員のうち2名退職 (27)
			医療薬学特別研究 (分子薬効解析学)	1~4通 未開講 1~4通	16			2	2				通常開講 (26) 准教授から教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25) 複数教員共同
医療薬学特別研究 (薬物療法解析学)	1~4通		16			3	2	1			准教授から教授への昇格 平成25年1月教員審査済 平成25年4月 複数教員共同		
小計 (3科目)			0	48	0	8	5	1	0	0	0		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
生命薬学 コース科目 講義科目 創薬基盤薬学 科目	薬品構造生物化学特論	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		1		1	0					通常開講 (27) 担当教員のうち1名退職 当該年度未開講のため (26) 講師から准教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 複数教員共同
	創薬有機化学特論	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		1		1	0					通常開講 (27) 当該年度未開講のため (26) 准教授から教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定)
	天然物化学特論	未開講 1・2・3・4後		1		1						当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)
	生薬資源科学特論	未開講 1・2・3・4前		1			1					当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)
	医薬品化学特論	未開講 1・2・3・4後		1					1			当該年度未開講のため (27) 通常開講 (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)
	創薬基盤薬学セミナー	1~4通 未開講 1~4通		8		1						通常開講 (26) 履修希望者がいないため (25)
	小計 (6科目)			0	13	0	3 2	1 2	2	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
生命薬学コース科目	生命機能科学科目 講義科目	生命分子化学特論	未開講 1・2・3・4前	1			1					当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)	
		代謝生化学特論	未開講 1・2・3・4前	1			1					当該年度未開講のため (27) 履修希望者がいないため (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定)	
		遺伝子機能解析学特論	未開講 1・2・3・4後	1			1		1			当該年度未開講のため (27) 通常開講 (26) 当該年度未開講のため (25) 隔年開講 (H26, 28年度開講予定) 兼2 複数教員共同	
		応用生化学特論	未開講 1・2・3・4前	1			1		2			履修希望者がいないため (27) 准教授から教授への昇格 平成27年1月教員審査済 平成27年4月 当該年度未開講のため (26) 履修希望者がいないため (25) 隔年開講 (H25, 27年度開講予定) 複数教員共同	
		生命機能科学セミナー	未開講 1~4通	8			1						履修希望者がいないため (27) 履修希望者がいないため (26) 履修希望者がいないため (25)
		小計 (5科目)		0	12	0	3	2	1	0	0	兼2	
生命薬学コース科目	実習科目	生命薬学特別研究 (創薬基盤薬学)	1~4通 未開講 1~4通	16			3	2	1			担当教員のうち1名退職 (27) 通常開講 (26) 准教授から教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 講師から准教授への昇格 平成26年1月教員審査済 平成26年4月 履修希望者がいないため (25) 複数教員共同	
		生命薬学特別研究 (生命機能科学)	未開講 1~4通	16			2	3	1			履修希望者がいないため (27) 准教授から教授への昇格 平成27年1月教員審査済 平成27年4月 履修希望者がいないため (26) 履修希望者がいないため (25) 複数教員共同	
		小計 (2科目)		0	32	0	6	5	2	0	0	0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目 講義科目	国際研究活動特論	未開講 1・2・3・4前		1								当該年度未開講のため(27) 履修希望者がいないため(26) 当該年度未開講のため(25) 兼1 隔年開講(H26,28年度開講予定)	
	小計(1科目)		0	1	0	0	0	0	0	0	0	兼1	
合計(35科目)			0	145	0	14	6	13	10	3	11	11	14 13 11 10 兼16 兼15 兼17

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任, 兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で, 前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し, 「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお, 昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については, 見え消しそのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任, 兼担の教員が担当する授業科目については, 備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で, 専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては, 「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には, 「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について, 設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても, 設置認可時の状況を黒字で記入してください。また, 前年度報告時より修正があれば, 赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
0	35	0	35	0	35	0	35	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに, [] 内に, 届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)
- ・ 資格に関する課程など, 別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	応用薬理学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
2	薬物送達学特論	1	1・2・3・4後	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
3	医薬品薬効動態学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
4	がん薬物療法学特論	1	1・2・3・4後	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
5	臨床分子薬品学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
6	天然物化学特論	1	1・2・3・4後	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
7	生薬資源科学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
8	医薬品化学特論	1	1・2・3・4後	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
9	生命分子化学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
10	代謝生化学特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
11	遺伝子機能解析学特論	1	1・2・3・4後	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講
12	国際研究活動特論	1	1・2・3・4前	専門	選択	隔年開講のため、当該年度は未開講

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

隔年開講科目の設置は、設置時の計画どおりであり特段の影響はない。
学生への周知は、研究指導教員による指導及びシラバスに掲載することにより対応しており問題はない。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \frac{12}{35} = 0.34$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	日赤岩手県支部跡地の 取得による増加 (27) 前九年地区土地の一部 売却による減少 (27)		
	校舎敷地	429,200.27㎡ 427,332.36㎡	0.00㎡	0.00㎡	429,200.27㎡ 427,332.36㎡			
	運動場用地	92,467.43㎡	0.00㎡	0.00㎡	92,467.43㎡			
	小 計	521,667.7 ㎡ 519,799.79㎡	0.00㎡	0.00㎡	521,667.7 ㎡ 519,799.79㎡			
	そ の 他	24,262.66㎡ 34,187.16㎡	0.00㎡	0.00㎡	24,262.66㎡ 34,187.16㎡			
	合 計	545,930.36㎡ 553,986.95㎡	0.00㎡	0.00㎡	545,930.36㎡ 553,986.95㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	マルチメディア教育研 究棟の増設 (25)			
	124,740.86㎡ 115,609.02㎡ (124,740.86㎡) -(115,609.02㎡)-	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	124,740.86㎡ 115,609.02㎡ (124,740.86㎡) -(115,609.02㎡)-				
	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		
	26室	76室 75室	32室 29室	2室 (補助職員 0人)		0室 (補助職員 0人)		
(3) 教 室 等	大学全体 マルチメディア教育研 究棟の増設 (25)							
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	薬学研究科			61 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	書籍の新規購入のため (27) 書籍の新規購入のため (26) 外国雑誌の種類数は パッケージの内容、変 更により変動する (25)
	薬学研究科	9,472 [1,602] 9,175 [1,293] (9,467 [1,583]) -(9,439 [1,582]) -(9,372 [1,582])	3,942 3,928 [2,882] (4,159 [2,873]) -(3,954 [2,746]) -(3,941 [2,817])	3,774 3,774 [2,875] (3,969 [2,868]) -(3,767 [2,741]) -(3,773 [2,811])	239 (232) -(231)	2,681 (2,680)	0 (0)	
	計	9,472 [1,602] 9,175 [1,293] (9,467 [1,583]) -(9,439 [1,582]) -(9,372 [1,582])	3,942 3,928 [2,882] (4,159 [2,873]) -(3,954 [2,746]) -(3,941 [2,817])	3,774 3,774 [2,875] (3,969 [2,868]) -(3,767 [2,741]) -(3,773 [2,811])	239 (232) -(231)	2,681 (2,680)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		H26.4月 分館で閲覧 テーブルが6席減と なった (26) H25.4月 本館で破損の ため6席減となった (25)			
	5,112.38㎡	457 463 469	278,200					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			第二体育館の解体に伴 う面積減 (26)			
	5,513.56㎡ 6,529.40㎡	野球場2面、サッカー・ラグビー場2面、テニスコート12面						

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	入学金の納付を廃止した(27)
		教員 1 人当り研究費等	721千円	721千円	図書購入費	4,000千円	2,900千円	4,100千円	
		共 同 研 究 費 等	43,392千円	43,392千円	設備購入費	1,000千円	500千円	500千円	
	学生 1 人当り 納付金		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		医療薬学専攻	765千円 965千円	425千円	425千円	425千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、研究助成金及び補助金							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称		岩手医科大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年	所在地	医学部医学科の入学定員増、歯学部歯学科の入学定員減に伴う経時的な増減である。 (27) 医学部医学科の入学定員増、歯学部歯学科の入学定員減に伴う経時的な増減である。 (26) 医学部医学科の入学定員が123人、編入学定員が7人、歯学部歯学科の入学定員が73人となったのは平成25年度からである。(25)
	年	人	年次人	人		倍			
医学部 医学科	6	123	7	765	学士(医学)	0.98	昭和23年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
歯学部 歯学科	6	73	0	444	学士(歯学)	0.69	昭和40年度	岩手県盛岡市中央通1-3-27	
薬学部 薬学科	6	160	0	960	学士(薬学)	1.05	平成19年度	岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1	
大学の名称		岩手医科大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
医学研究科(博士課程)						1.19			
生理系専攻	4	6	0	24	博士(医学)	0.24	昭和35年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
病理系専攻	4	3	0	12	博士(医学)	0.49	昭和35年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
社会医学系専攻	4	2	0	8	博士(医学)	3.87	昭和35年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
内科系専攻	4	20	0	80	博士(医学)	0.77	昭和35年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
外科系専攻	4	19	0	76	博士(医学)	0.61	昭和35年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
医学研究科(修士課程)									
医科学専攻	2	10	0	20	修士(医科学)	0.20	平成17年度	岩手県盛岡市内丸19-1	
歯学研究科(博士課程)									
歯学専攻	4	18	0	72	博士(歯学)	0.45	昭和58年度	岩手県盛岡市中央通1-3-27	
薬学研究科(修士課程)									
薬科学専攻	2	3	0	6	修士(薬科学)	0.00	平成25年度	岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(A/C対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・A/C対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	野中 孝昌 (49)	平成25年4月	薬品構造生物化学特論【隔年】 創薬基盤薬学セミナー 生命薬学特別研究 (創薬基盤薬学)						
専	教授	藤井 勲 (57)	平成25年4月	天然物化学特論【隔年】 生命薬学特別研究 (創薬基盤薬学)						
専	教授	名取 泰博 (60)	平成25年4月	病態生理学特論【隔年】 医療薬学特別研究 (分子病態解析学)						
専	教授	大橋 綾子 (49)	平成25年4月	遺伝子機能解析学特論【隔年】 生命薬学特別研究 (生命機能科学)						
専	教授	弘瀬 雅教 (55)	平成25年4月	組織・器官機能研究法特論【隔年】 蛍光イメージング研究法特論【隔年】 医療薬学特別研究 (分子薬効解析学)						
専	教授	佐塚 泰之 (55)	平成25年4月	薬物送達学特論【隔年】 薬物療法解析学セミナー 医療薬学特別研究 (薬物療法解析学)						
専	教授	小澤 正吾 (55)	平成25年4月	医薬品薬効動態学特論【隔年】 医療薬学特別研究 (薬物療法解析学)						
専	教授	駒野 宏人 (57)	平成25年4月	神経科学特論【隔年】 医療薬学特別研究 (分子病態解析学)						
専	教授	前田 正知 (61)	平成25年4月	生命分子化学特論【隔年】 生命機能科学セミナー 生命薬学特別研究 (生命機能科学)						
専	教授	那谷 耕司 (53)	平成25年4月	病態医化学特論【隔年】 分子病態解析学セミナー 医療薬学特別研究 (分子病態解析学)						
専	准教授	河野 富一 (45)	平成25年4月	創薬有機化学特論【隔年】 生命薬学特別研究 (創薬基盤薬学)	専	教授	河野 富一 (46)	平成26年4月	創薬有機化学特論【隔年】 生命薬学特別研究 (創薬基盤薬学)	平成26年4月 准教授から教授に昇格 平成26年1月教員審査済 (26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	林 宏明 (48)	平成25年4月	生薬資源科学特論【隔年】 生命薬学特別研究(創薬基盤薬学)						
専	准教授	杉山 晶規 (48)	平成25年4月	分子腫瘍学特論【隔年】 医療薬学特別研究(薬物療法解析学)						
専	准教授	中西 真弓 (47)	平成25年4月	応用生化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(生命機能科学)	専	教授	中西 真弓 (49)	平成27年4月	応用生化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(生命機能科学)	平成27年4月 准教授から教授に昇格 平成27年1月教員審査済(27)
専	准教授	奈良場 博昭 (45)	平成25年4月	炎症再生医学特論【隔年】 医療薬学特別研究(分子病態解析学)						
専	准教授	田邊 由幸 (49)	平成25年4月	応用薬理学特論【隔年】 医療薬学特別研究(分子薬効解析学)			後任未定			平成27年3月 田邊准教授：他大学への転出による退職(27) ・応用薬理学特論は、隔年開講のため当該年度は未開講 ・医療薬学特別研究は、他に2名教員がいるため対応可能 ・後任は調整中
専	准教授	幅野 涉 (46)	平成25年4月	ゲノム情報薬学特論【隔年】 医療薬学特別研究(薬物療法解析学)						
専	准教授	前田 智司 (44)	平成25年4月	薬物トランスポート学特論【隔年】 医療薬学特別研究(分子薬効解析学)	兼任	講師	前田 智司 (46)	平成27年4月	薬物トランスポート学特論【隔年】 医療薬学特別研究(分子薬効解析学)	平成27年3月 他大学への転出による退職(27) ・兼任教員として授業を担当
専	准教授	藤本 康之 (45)	平成25年4月	代謝生化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(生命機能科学)						
専	准教授	大橋 一晶 (44)	平成25年4月	応用生化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(生命機能科学)						
専	准教授	三部 篤 (46)	平成25年4月	分子薬剤治療学特論【隔年】 分子薬効解析学セミナー 医療薬学特別研究(分子薬効解析学)	専	教授	三部 篤 (47)	平成26年4月	分子薬剤治療学特論【隔年】 分子薬効解析学セミナー 医療薬学特別研究(分子薬効解析学)	平成26年4月 准教授から教授に昇格 平成26年1月教員審査済(26)
専	准教授	工藤 賢三 (52)	平成25年4月	がん薬物療法学特論【隔年】 医療薬学特別研究(薬物療法解析学)	専	教授	工藤 賢三 (52)	平成25年4月	がん薬物療法学特論【隔年】 医療薬学特別研究(薬物療法解析学)	平成25年4月 准教授から教授に昇格 平成25年1月教員審査済(25)
専	講師	関 安孝 (39)	平成25年4月	薬品構造生物化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(創薬基盤薬学)	専	准教授	後任未定 関—安孝—(40)—	平成26年4月	薬品構造生物化学特論—【隔年】— 生命薬学特別研究—(創薬基盤薬学)—	平成27年3月 関准教授：他大学への転出による退職(27) ・薬品構造生物化学特論は、教員が1名減となるが、現員にて対応可能で、野中教授が担当 ・生命薬学特別研究は、他に5名教員がいるため対応可能 ・後任は調整中 平成26年4月 講師から准教授に昇格 平成26年1月教員審査済(26)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	西谷 直之 (41)	平成25年4月	医薬品化学特論【隔年】 生命薬学特別研究(創薬基盤薬学)						
専	講師	白石 博久 (39)	平成25年4月	遺伝子機能解析学特論【隔年】 生命薬学特別研究(生命機能科学)						
専	講師	松浦 誠 (44)	平成25年4月	臨床分子薬品学特論【隔年】 医療薬学特別研究(薬物療法解析学)						
兼任	副学長	祖父江 憲治 (65)	平成25年4月	神経科学特論【隔年】						
兼任	教授	佐藤 成大 (64)	平成25年4月	病態生理学特論【隔年】						平成26年3月 佐藤教授：定年退職(26) ・教員が1名減となるが、現員にて対応可能で、名取教授が担当
兼任	教授	平 英一 (49)	平成25年4月	蛍光イメージング研究法特論【隔年】						
兼任	教授	増田 友之 (58)	平成25年4月	分子腫瘍学特論【隔年】						
兼任	教授	山内 広平 (61)	平成25年4月	病態医化学特論【隔年】						
兼任	教授	志賀 清人 (56)	平成25年4月	がん薬物療法学特論【隔年】						
兼任	教授	有賀 久哲 (48)	平成25年4月	がん薬物療法学特論【隔年】						
兼任	教授	諏訪部 章 (54)	平成25年4月	病態医化学特論【隔年】						
兼任	教授	佐原 資謹 (58)	平成25年4月	病態生理学特論【隔年】						
兼任	教授	石崎 明 (49)	平成25年4月	蛍光イメージング研究法特論【隔年】						
兼任	教授	木村 重信 (59)	平成25年4月	炎症再生医学特論【隔年】						
兼任	教授	加藤 裕久 (62)	平成25年4月	蛍光イメージング研究法特論【隔年】						
兼任	准教授	前沢 千早 (49)	平成25年4月	分子腫瘍学特論【隔年】						
兼任	准教授	高橋 和真 (49)	平成25年4月	病態医化学特論【隔年】						平成26年3月 高橋准教授：他大学への転出による退職(26) ・教員が1名減となるが、現員にて対応可能で、那谷教授が担当
兼任	講師	青木 淳賢 (49)	平成25年4月	遺伝子機能解析学特論【隔年】						
兼任	講師	堀 昌平 (42)	平成25年4月	遺伝子機能解析学特論【隔年】						
兼任	講師	二井 将光 (72)	平成25年4月	国際研究活動特論【隔年】						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成		年齢構成(前年度の状況)	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
25	1	26	21 24 25	2 1	23 25	教授65 准教授・講師60	0	教授65 准教授・講師60	0
(25)	(1)	(26)	[Δ4]	[1]	[Δ3]	歳	名	歳	名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:Δ1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません),および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 「年齢構成(前年度の状況)」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「-」を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	田邊 由幸	他大学への昇格転出により、平成27年3月31日付にて退職（27）
2	准教授	前田 智司	他大学への転出により、平成27年3月31日付にて退職（27）
3	准教授	関 安孝	他大学への昇格転出により、平成27年3月31日付にて退職（27）

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>【田邊 由幸 准教授】 本学としては、設置認可時の計画の確実な履行を期すべく同人の慰留に努めたが、他大学への昇格転出であるため、誠に遺憾な結果となった。後任人事については、現在のところ調整中であり、後任の採用等も含め鋭意努力している。 なお、同人が担当している授業科目「応用薬理学特論」については隔年開講（平成26・28年度）であること、また「医療薬学特別研究（分子薬効解析学）」については他の教員で対応が可能であることから支障はきたさない。 また、学生にはシラバスの配布をもって周知を図った。</p> <p>【前田 智司 准教授】 本学としては、設置認可時の計画の確実な履行を期すべく同人の慰留に努めたが、家庭の事情もあり、誠に遺憾な結果となった。なお、同人が担当している授業科目については、兼任教員として引き続き授業を担当することになるので支障はきたさない。 また、学生にはシラバスの配布をもって周知を図った。</p> <p>【関 安孝 准教授】 本学としては、設置認可時の計画の確実な履行を期すべく同人の慰留に努めたが、他大学への昇格転出であるため、誠に遺憾な結果となった。後任人事については、現在のところ調整中であり、後任の採用等も含め鋭意努力している。 なお、同人が担当している「薬品構造生物化学特論」については他に教員が1名おり対応可能であること、また「生命薬学特別研究（創薬基盤薬学）」については他に5名の教員がいるため対応が可能であることから支障はきたさない。 また、学生にはシラバスの配布をもって周知を図った。</p>
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 設 置 時 (H24年11月)	学位申請の際に国際学術誌への論文投稿等の能力を確認すると記載していることから、これらの確認事項が学位論文審査過程の中でどのように担保されているのか明確になるよう適切に改めること。	留意事項 平成26年度後期には、2年次（1期生）に対し初期審査を実施し、研究内容等に関する指導・助言を行った。 (27) 平成26年度に2期生を迎え入れたところなので、現時点では未履行である。 (26) 岩手医科大学薬学研究科においては今年度4月に新入生を迎えたところなので、現時点では未履行である。 (25)	平成27年度後期には、3年次（1期生）に中間審査、2年次（2期生）に初期審査を実施する。 (27) 平成26年度は後期に2年次の初期審査を実施する。 (26) 博士課程では2年次後期に初期審査を、3年次後期に中間審査を実施し研究内容についての確認を行うが、この際に研究内容が国際学術誌への論文投稿が可能となるよう、指導・助言を行う。また学位論文審査時には、学位論文が国際学術誌に投稿可能な内容であるかという観点からも審査を行う。 (25)
	倫理審査については特別研究のシラバス等に示すなど、適切な運用に努めること。	留意事項 平成26年度履行済み。 (26) 現時点では未履行である。 (25)	平成26年度シラバスに倫理審査(下記)について掲載した。(26) 平成25年度以降のシラバスで「学位取得までの概要」の項目に、「研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合には、研究開始前に学内の倫理委員会等の承認を得ること。」という記載を加える。なお、平成25年度については、研究指導教員が特別研究の中で上記事項に関して資料を配布の上、説明を行う。(25)

<p>設置計画履行状況</p> <p>調査時 (H27年2月)</p>	<p>既設学部等（歯学部歯学科）の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生の確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>改善意見</p>	<p>平成27年度入学者が69名であったため、定員充足率は0.69倍となり、前年度比0.3ポイント上昇した。(27)</p> <p>本学歯学部の募集人員は、平成21年度が80名、同22年度が70名、そして同23年度以降現在まで57名と、漸減させている。この募集人員は私立歯科大学・歯学部の中では最小であり、特に平成23年度程度が私学の健全経営のためのリミットと考えている。しかしながら、このような状況であろうとも、入試選抜機能をどのようにして回復させるかを考え、全体的な学力アップを図らなければならないと考えている。(26)</p>	<p>定員充足率が上昇し改善が見られた。次年度以降も下記対策を推進する等、学生確保に向けた努力を継続する。(27)</p> <p>(1) 国家試験合格率アップが入学者確保に直結すると考えられるため、現行の歯学部改革プロジェクト（教育体制等の改革）の内容の適正な評価とその見直しを実施している：歯科医師国家試験の新卒者成績が104回（平成23年）の60%代前半から105回（平成24年）と106回（平成25年）では70%代後半の合格率に回復し、現在進めている歯学部改革プロジェクトの成果によるものと考えられたが、107回では66.7%と低下傾向となったため、カリキュラム編成の再考が必要と考え現在教育委員会、教務委員会、教授会で検討中である。</p> <p>(2) 入試選抜科目の検討：平成23年度本学歯学部一般入試科目より国語を増設して、数学、英語、国語、理科の中から3科目選択とし理科を受験科目から外すことが可能としている。しかしながら、理科不選択者の入学後の成績追跡調査の結果、必ずしも良好な成績を期待できないことが明らかとなってきた。今後は入試科目について検討する教授会下部組織である「歯学部在り方委員会」を中心に更なる追跡調査を継続し、入学後の専門科目の履修に効果的な入試科目の設定について議論し対応して行きたい。この入試科目の議論については、指定校などの推薦入試科目においても同様であると考えている。(26)</p>
---	---	-------------	--	---

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

薬学研究科の専任教員は、全員が薬学部薬学科の専任教員であることから、薬学部の組織を活用した運用とし組織としての業務負担の軽減を図る。

薬学部においては、薬学部教授会に教務委員会を組織し、その中に教員FD並びに教育関連会議の情報収集及び教員派遣に関する業務を担当する教育研修部会を置いている。同様に、授業評価に関する事項、薬学部教育評価の実施及び評価報告書に関する事項を担当する教育評価部会を置いている。

それらの組織を薬学研究科で運用する具体的な方法としては、各委員会・部会に在籍している大学院担当教員を中心に、薬学部、薬学研究科で共有できるワークショップ、シンポジウム等を計画していく。

岩手医科大学薬学部教務委員会規程（抄）

第5条 教務委員会に前条の目的を達成するため、次の専門部会を置く。

各専門部会の業務分担は別に定める。

(3) 教育研修部会

(4) 教育評価部会

薬学部教務委員会専門部会業務分担（抄）

薬学部教務委員会の各専門部会の業務分担は下記のとおりとする。

(3) 教育研修部会

- ・教員FD（WS、シンポジウム）に関する事項
- ・教育関連会議の情報収集及び教員派遣に関する事項

(4) 教育評価部会

- ・授業評価に関する事項
- ・薬学部教育評価の実施及び評価報告書に関する事項

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成27年度は、5月1日現在で未開催である。

c 委員会の審議事項等

平成27年度は、5月1日現在で未開催であるため、審議事項等はない。

② 実施状況

a 実施内容

ア. 薬学部として過去に実施した主な活動は以下のとおり。

- ・教員研修会 講演 「岩手県における薬剤師卒後研修会の概要」 (H22. 5. 31)
- ・教員研修会 講演 「ハラスメントの被害者・加害者にならないために！」 (H22. 9. 10)
- ・教員研修会 講演 「学生のニーズを反映したカリキュラムとは」 (H23. 4. 23)
- ・教員研修会 講演 「大学教育と学生の学力評価 - 教育学の立場から」 (H24. 11. 15)
- ・教員研修会 講演 「学生のメンタルヘルスとその支援」 (H24. 12. 6)
- ・教員研修会 講演 「地域医療と薬学教育について～ 徳島文理大学薬学部の特色ある地域医療教育への取り組み」 (H25. 2. 15)

- ・教員研修会 講演 「第98回薬剤師国家試験の総括」 (H25. 6. 7)
- ・教員研修会 講演 「学生の意欲を引き出すコーチング」 (H25. 8. 28)
- ・教員研修会 講演 「TBL (チーム基盤型学習法) とは何か-TBLでTBLを学ぶ-」 (H25. 10. 23)
- ・教員研修会 講演 「学生のメンタルヘルスとどう向き合うか」 (H26. 1. 9)
- ・教員研修会 講演 「ハラスメントとは何か-本学でのアンケート結果をもとに-」 (H26. 2. 26)
- ・教員研修会 講演 「薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂について」 (H26. 4. 25)
- ・教員研修会 講演 「Diploma Policyを考える: 本学薬学部目標とする卒業時の学生の資質とは」 (H26. 6. 19)
- ・教員研修会 講演 「Admission Policyを知る、そして本学薬学部の広報を考える」 (H26. 7. 23)
- ・教員研修会 講演 「Active Learningとその評価法について考える」 (H27. 2. 25)
- ・教員研修会 講演 「Diploma Policyと目標到達度の指標について」 (H27. 2. 27)

・学生による授業評価

・教員研修会報告書の作成

・教育・研究年報の作成

・岩手医科大学研究業績集の発行

イ. 薬学研究科における教員の教育・研究指導に関する資質の維持向上策としては以下のとおり。

・教育手法を修得・改善するためのワークショップ、シンポジウムの開催と専任教員の受講の義務化

・教育関連研修会への専任教員の派遣

・国内外の関連学会 (日本薬学会、日本生化学会、日本神経学会、日本薬理学会、日本生理学会、日本医療薬学会、日本化学療法学会、国際薬学連合年会、国際生化学分子生物学学会、国際薬理・臨床薬理学会、国際糖尿病学会、ゴードン会議等) における研究発表

・国際的に質の高い原著論文を出版することの義務付け

・海外研修への積極的参加

・各論文の引用度/国際的貢献、研究費取得状況等を定期的に評価

・インパクトの高い、被引用度の高い論文を発表するよう指導

・論文発表が無い教員に対する適切な指導

・医学研究科・歯学研究科との合同の場における研究成果発表・議論の機会を積極的に設ける等、医歯薬共同研究の推進

b 実施方法

・ワークショップ、シンポジウム、研修会、講演会形式により実施する。

c 開催状況 (教員の参加状況含む)

・教員研修会 講演 「薬学教育モデルコアカリキュラムの改訂について」 (H26. 4. 25)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・開催後、結果を踏まえ具体的に検討する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

・学部では、年間を通じて実施している。研究科では実施していない。

b 教員や学生への公開状況, 方法等

・教員には報告書を作成し配布しており、学生には掲示板に掲示し公開している。

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・ 入学者の確保

平成27年度の入学者は5名であり、昨年度（5名）と同じ結果となった。内訳は、一般選抜1名、社会人特別選抜4名であった。入学者の志望理由は、大学院薬学研究科のアドミッションポリシーに掲げる①医療薬学と医療の発展に貢献する臨床薬剤師、②医薬品開発研究者及び生命薬学研究者、③薬学教育者を旨とする者のそれぞれに合致していた。

次年度以降についても、広報活動を軸に入学者の確保に努める。

・ 教育体制の整備状況

平成27年4月1日付で、准教授1名を教授に昇格させ教育体制の充実を図った。しかしながら、准教授3名が他大学に転出したため、誠に遺憾な結果となった。直ちに後任の人事に着手し、後任教員の確保について鋭意努力している。

・ 施設・設備等の整備状況

各種施設・設備等は設置認可申請内容どおり整備済であることは言うまでもないが、授業用の備品等も全て揃え学生の受入体制は整っている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成24年度に実施し、平成25年度に結果を公表した。今回は、平成28年度実施を予定している。

b 公表方法

・ 大学ホームページで公開している。

③ 認証評価を受ける計画

・ 平成25年度に大学基準協会の認証評価を受け、大学基準に適合していると評価された。

今回は、平成32年度に評価を受ける予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成27年8月31日)